

令和5年度 第3回総合教育会議

令和5年11月
和泉市・和泉市教育委員会

■ 本日の議事

- ▶ 1. 第2回総合教育会議の振り返り
- ▶ 2. データ連携事業について
- ▶ 3. 令和6年度実施する新たな取組み（案）について

1. 第2回総合教育会議の振り返り



【前回の振り返り】課題整理～新たな取組みの検討

1 現状の課題

福祉的要因に係る家庭等の分類

- ①既に問題が発生している状態
- ②何等かの問題を抱えている状態
- ③特に問題が出ていない状態

③における家庭等は**表出して**いないだけで、福祉的な問題を抱えている**可能性**がある。

※①②は市をはじめ公的機関等からの支援や対応が行われている。

2 取組みの視点

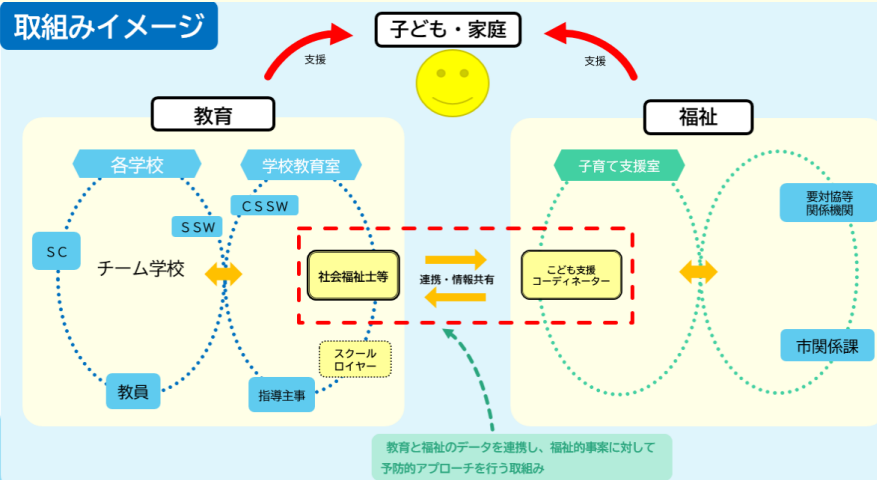
学校現場における課題

- 教員の経験則による児童生徒の抽出
- 福祉的な課題の相談窓口が不明確
- 対象者の増加による教員の負担増

課題への対応

- 既存データの集約・分析による抽出
- 福祉的事案への対応体制の明確化
- SC、SSW、SLなどの支援体制の充実

3 新たな取組みの検討



- ✓ 一定のエビデンスに基づいた対象者が抽出できる
- ✓ 円滑な情報共有が可能になる
- ✓ 迅速かつ円滑に支援につなげることができる
- ✓ 教員の負担軽減

【前回の振り返り】第2回会議(7月20日)

- 問題が表出していない家庭には**データ**を利用して関与していく他なく、虐待等を察知するためには、家庭の生活状況を把握することが大切。
- マンパワーを効果的に発揮させるために**DX**を進めるべきである。
- 問題が**表出していない**部分への取組みも大切であるが、**発生している**事案に対しては早急な対応が必要。また、それに対応できる**マンパワー**も必要。
- しっかりと**目的**を明確にしたうえで体制を考えるべき。
- 提示のあった新たな取組みにおいては、**責任者、指揮命令系統**を明確にしておく必要がある。
- 具体的に**段階が分かる**フローチャートなど**図**で示してほしい。
- ヤングケアラー支援にも取り組んでほしい。

➤ 教育委員会 意見交換会(9月21日)

- 社会福祉士とチーフスクールソーシャルワーカーの**役割分担**を明確にする必要がある。
- スクールロイヤーについて、必要な時に相談する体制だけでなく、**非常勤など**教育委員会に配置した方が**効果的**ではないか。
- スクールロイヤーや社会福祉士について、**適任の力量ある人材**を確保する必要がある。

2. データ連携事業について



こどもデータ連携実証事業（こども家庭庁事業）

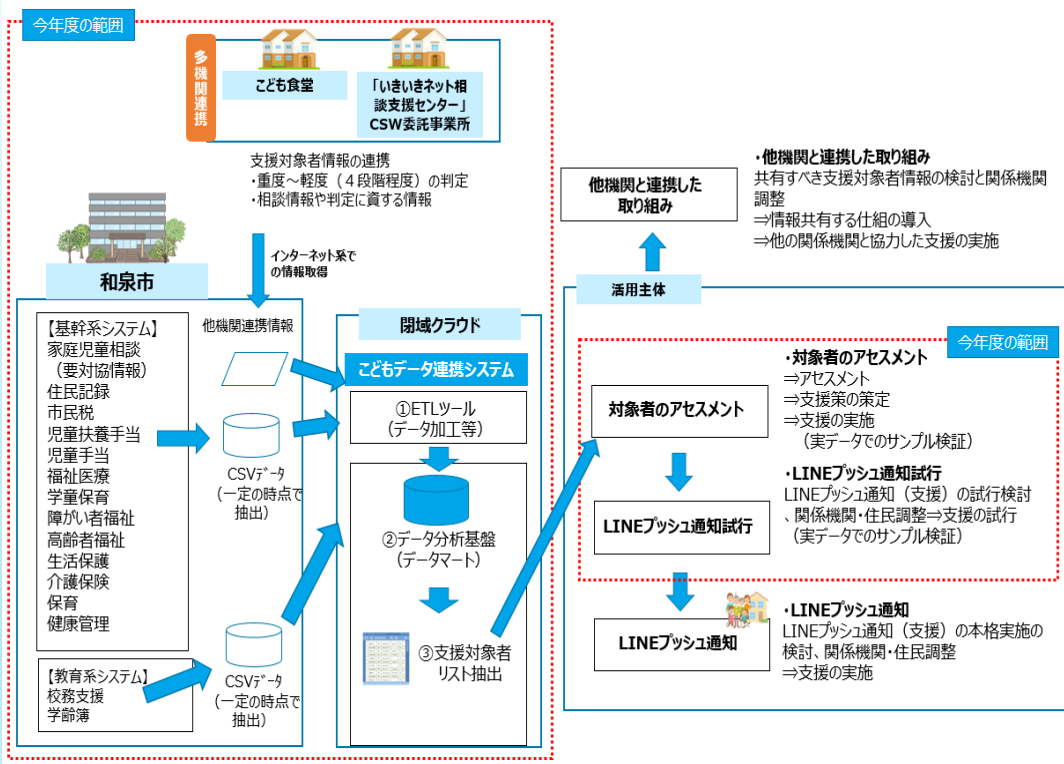
1. 概要

こども家庭庁のこどもデータ連携実証団体として、こどもや家庭に関する**情報連携**を行い、**気がかりのある家庭の発見、予防的アプローチの仕組み**を構築する。
 ※和泉市は令和5年度採択

2. 目指す姿

情報連携による**気がかりのある家庭（貧困・児童虐待）への予防的アプローチ**の推進

3. スキーム（和泉市）



4. 年度別の事業内容

事業年度	事業内容
令和5年度	市で保有している情報及び他機関（CSW、こども食堂等）の情報を活用 支援を必要としている子ども（見つけられていない子ども）に対するアプローチをプッシュ型で行うための仕組みを試行、効果検証
令和6年度以降（予定）	気がかりのある家庭が利用できる行政サービスに 確実につながる仕組み を構築（市長部局のデータと教育のデータを紐づけ）

5. 現状における課題

学校が把握している子どもの情報のデータ化
 市長部局が使用しているIDを教育系システムと**共有していない**ためデータの紐づけが困難

6. その他採択自治体

R5採択

- ・福島県会津美里町
- ・埼玉県美里町 川島町
- ・千葉県印西市
- ・神奈川県横須賀市
- ・新潟県佐渡市
- ・岐阜県山県市
- ・宮崎県延岡市

想定される支援スキーム

データ等から貧困、虐待の課題がある児童が抽出された場合

①データから貧困+虐待の課題がある児童を抽出【子育て支援室】

②実際に支援が必要なこども・家庭かを調査【子育て支援室：要対協の調査権限】

③学校などの所属先で、こども・家庭の再アセスメント【学校ではSSWが中心に実施】

④支援が必要との結果の場合【要対協に登録】ケース会議を開催し、支援策を検討

⑤教育・福祉の連携のもと、支援開始。こども食堂などの社会資源につなげる

3. 令和6年度実施する新たな取組み（案）について

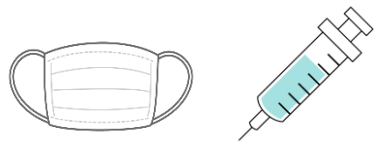
■これまでの意見等を踏まえた取組み検討

目指すべき取組み

虐待・不登校等の**予防**と事案発生後の**早期対応**への**支援体制の構築**

それぞれの取組みに必要な資源

予 防

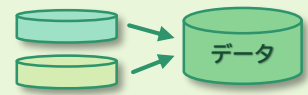


早期対応




必要な資源

データ連携

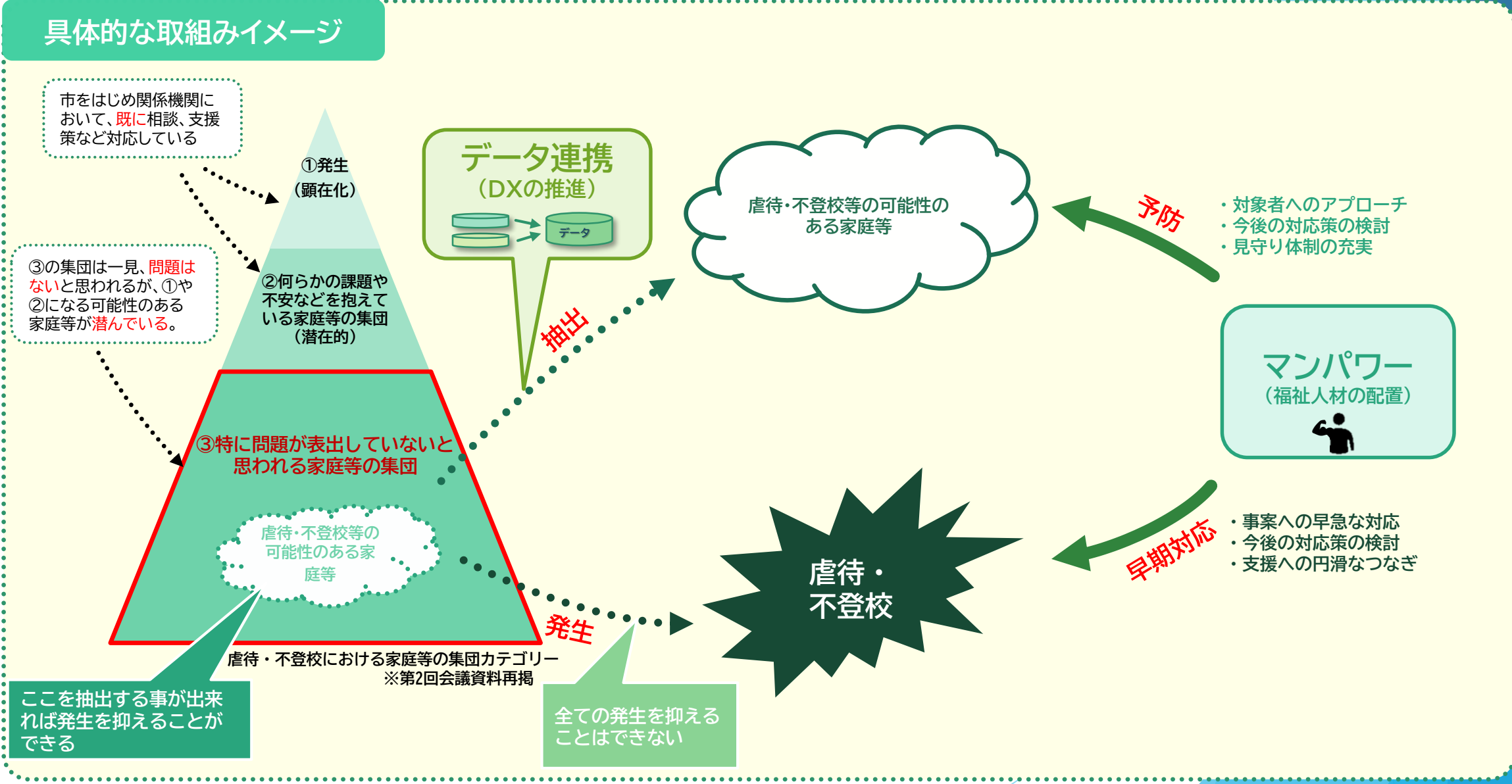


+

マンパワー



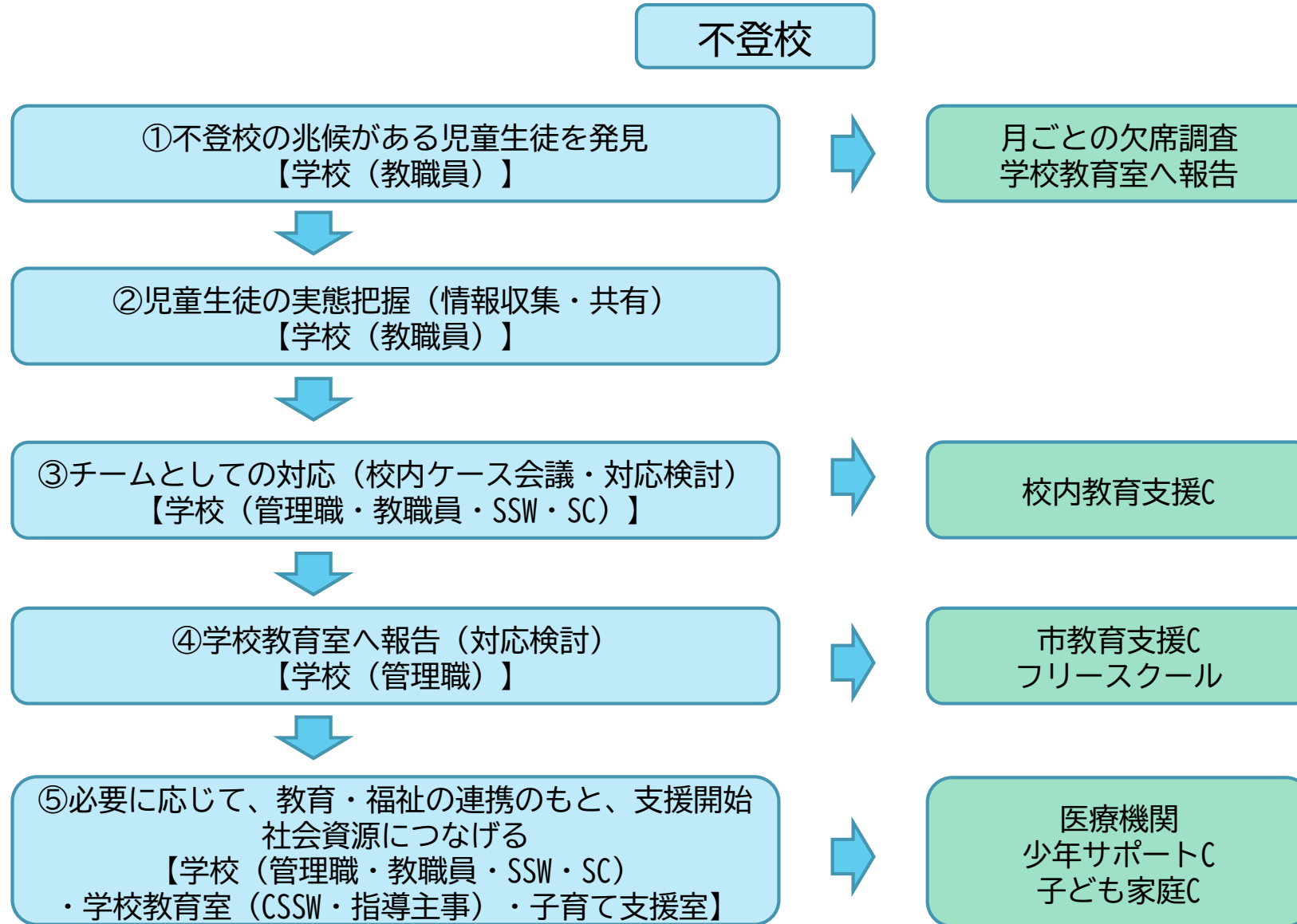
■これまでの意見等を踏まえた取組み検討



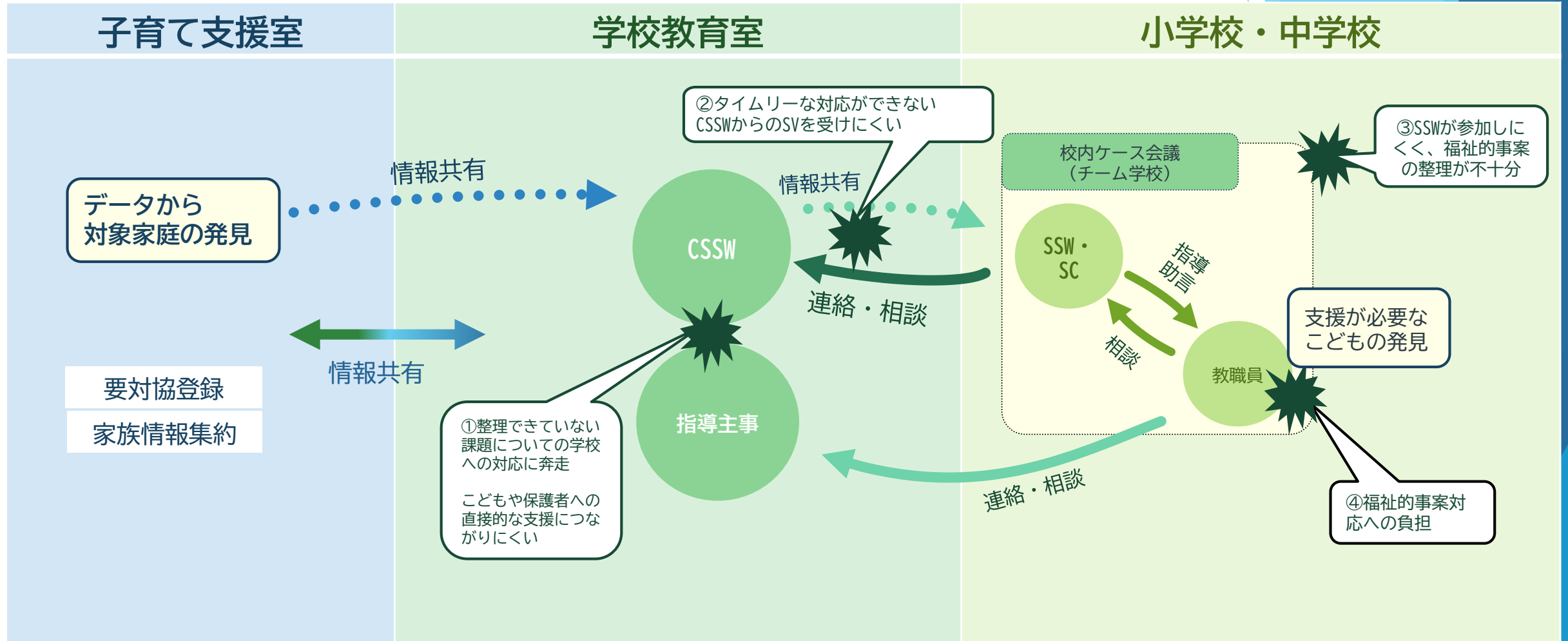
現状 虐待 対応フロー図



現状 不登校 対応フロー図

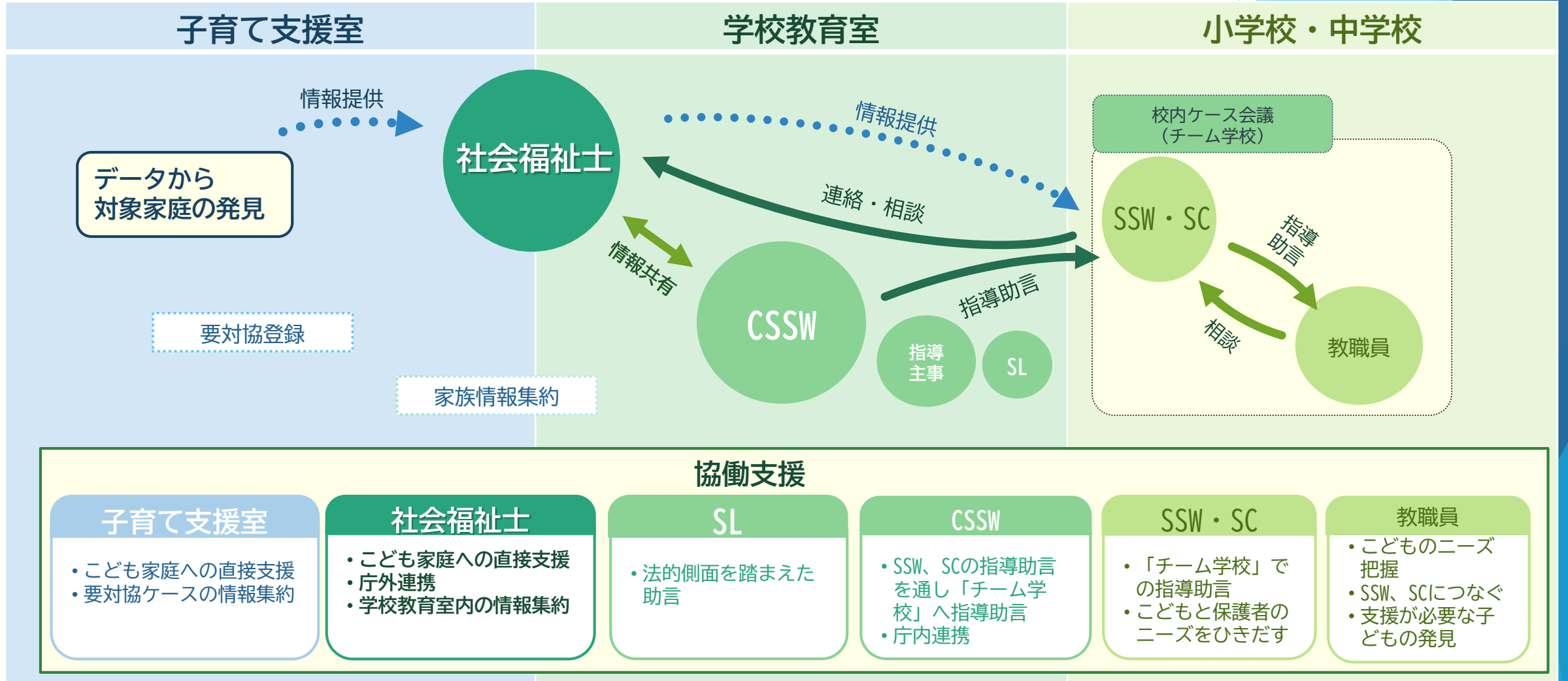


<現状> 発見から支援までの流れと課題



拡大ケース会議【情報共有 アセスメント 支援方針 役割分担】

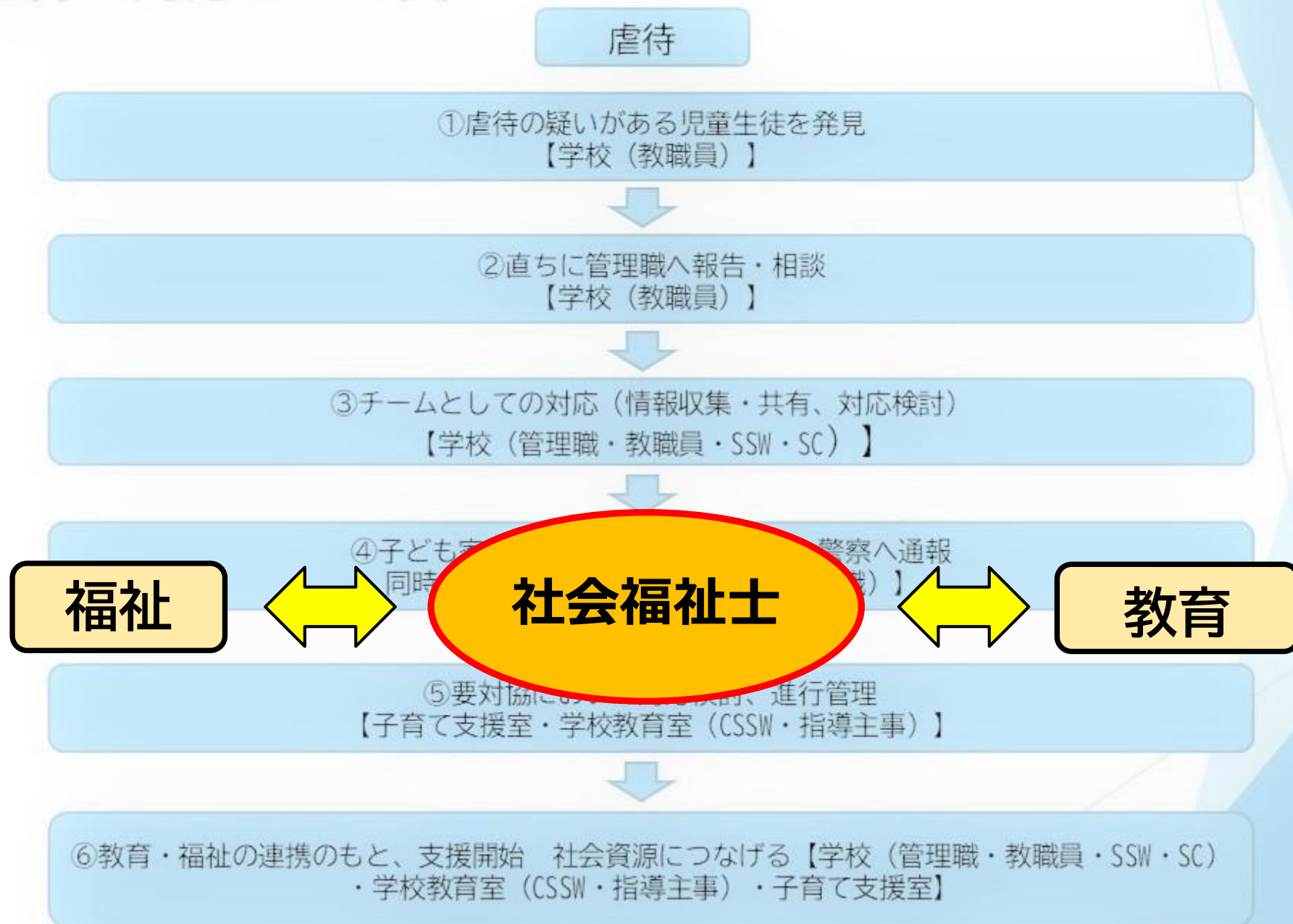
<新> 発見から支援までの流れ（各機関の役割）



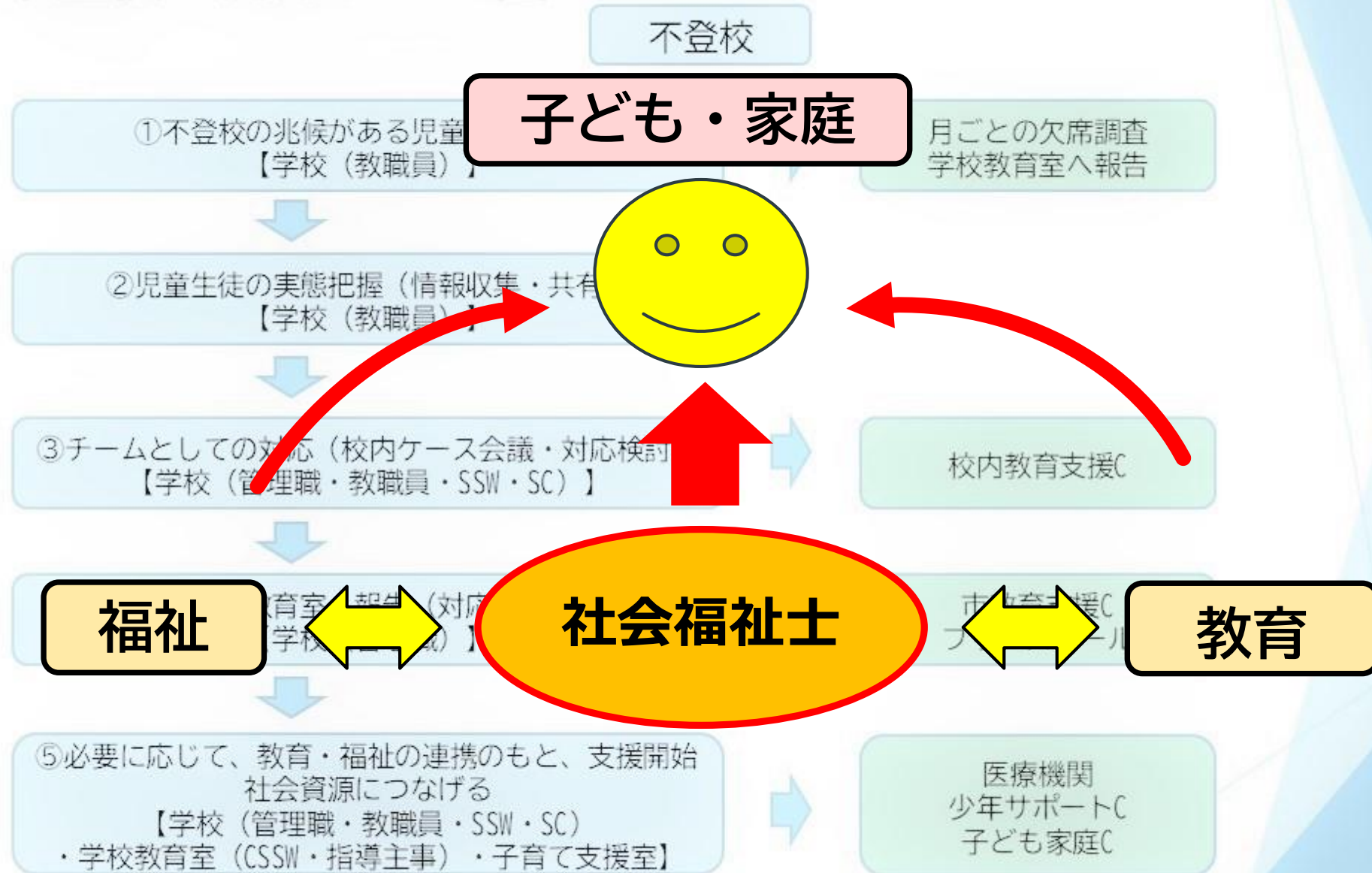
開催についての動議は社会福祉士に一本化

拡大ケース会議【情報共有 アセスメント 支援方針 役割分担】

現状 虐待 対応フロー図



現状 不登校 対応フロー図



令和6年度における新たな取組みのまとめ

種別	体制	予算	期待する効果
社会福祉士	常勤（正職員）	※次年度、市全体で5人採用予定 人事課と調整中	<ul style="list-style-type: none"> ・増加する案件について、教育と福祉の連携体制、チーム学校による支援体制がより充実する ・手厚い支援を提供することで各種事案の未然予防、生じた事案の解消を図り、また重篤化を防ぐことが期待できる
スクールロイヤー	学校教育室へ配置 （月1回＋相談業務12回） ※新規	738千円	<ul style="list-style-type: none"> ・法的根拠に基づき対応を行うことで、速やかな問題解決を図り、子どもの最善の利益を実現する（いじめ事案を中心として、虐待、不登校等対応時に効果的）
スクールソーシャルワーカー	500時間 ← 500時間（CSSW） 3200時間 ← 2800時間（SSW）	2,000千円 11,840千円	<ul style="list-style-type: none"> ・全10中学校区拠点校にSSW配置が完了 ・学校アセスメントやケース会議の組織運営を充実させ、各種事案の未然予防、生じた事案の解消を図る
スクールカウンセラー	2100時間 ← 2100時間 （中・府費） 1806時間 ← 1694時間 （小・市費）	0千円 9,933千円	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の配置を拡充（15小・年間10回 6小・年間18回） ・相談業務に加え、チーム学校の一員としての機能を充実させ、各種事案の未然予防、生じた事案の解消を図る

※こどもデータ連携実証事業については国費で対応予定。